

学ぶことの意義とよこび

1 生きることと学ぶこと (1) 「私たちが何のために学ぶのか」
(作文・意見発表)

(知識のため) (いい会社に入るため) (経済的に将来困らないため) (出世するため) (あわせになるため) etc

ひとはたれでも「よくありたい」と思う =

(善い人、善い行い、善い事) ← 人間は「善さ」と志向する存在 → (善い知識、善い社会、善い山...)

その所産

(学問) (芸術) (科学) (宗教) (法律) (制度) (習慣) (風俗) etc

受容・批判

(学び) ———— (体験し) ———— (思索する)

人間が生きるということはたえず
学習の過程である

人間の形成
(自己の形成)

資料

人間は人間の社会の中で文化を学習
して人間になる

新しい文化の創造

自主的な生き方の開発

新しい社会の形成

2 学問と人生 (1) 学問とは何か

学問 < 学び 問う → (真理と問う) = (真理の探究)

資料

哲学的真理

科学的真理

人間と生かすため

人間に生存の意味と目的と自覚を

人間が人間らしく生きるにはどうする
ように先を予てこけるもの

人が人を殺し、人が人であるべき意義を失い、人に不幸を与える平和と害する
そういうものは真理であるはずがない。— 学問(科学)の結論がアウレウシヤやヒビツ
で「正しい」であってはいけない

「私たちが何のために学問をおこなうのか」

平和を愛し、すべての人のしあわせを実現する
(人間(人格)の形成) • (社会(国家・世界)の建設)

3 学ぶ(学問をおこなう)よこび

資料

「学んで時に習うまじ説ばし
からずや。-----

学校教育

受け身の学問

資料

これからのほんとうの勉強はねえ
テストをしながら商売の先生から
義理で教わることではないんだ---
— 自学・生涯学習 —

能動的自主的学問